



～学会に出場するまでの道のり～

文責（ヴェリタス担当；杉原）

彼女たちのこのポスターは2年生のヴェリタスⅡの1年間の集大成です。チタンを使った光触媒に関する事で、当時授業を担当していた教員（私）が酸化チタンの触媒作用に詳しくなかったため、どう実験していいか、手探りの中、彼女たちは一つずつ苦労しながら、いつも前向きに実験していました。一酸化炭素を除去したい、自動車部品の代替金属を作りたいという当初の熱意（2年生の4月）をいつも心の中に持ち続けた二人でした。部活動や勉強、戸陵祭等忙しい中、3年生になって6月に英語で全員が1年生の前でポスター発表をする発表会があり、ほとんどの生徒がそこで一段落する中、彼女たちに、今回の金属学会の出場を呼び掛けたところ、ほぼ即答で「やります」と言ってくれました。

そして、ついに本日（9月28日）発表会がやってきました。オンライン形式ではありましたが、時間が近づくと緊張感が高まり、ZOOMの事前準備をしながら開始を待っていました。開始時間ちょうどに、防衛大の先生から質問をいただき、約20分間質疑応答がありました。そのあと休憩することもなく、横国の先生からも質問をいただき約15分間質疑応答がありました。その後少し時間が経ってホッとした頃に、東北大学の先生から質問があり約15分間質疑応答を行いました。気が付けばあっという間に過ぎた時間でしたが、最初にアドバイスいただいた防衛大の先生の内容を、次の質問者の回答にうまく反映して答えることができていました。最後の東北大学の先生からは、プレゼンが上手いし、ポスターも背景がしっかりしており、仮説を立て、実験・結果・考察と非常にわかりやすい、と言っただけでした。発表の様子をmeetで職員室に配信していたので、副校長先生や教頭先生も見てくれており、本当によく頑張りました。

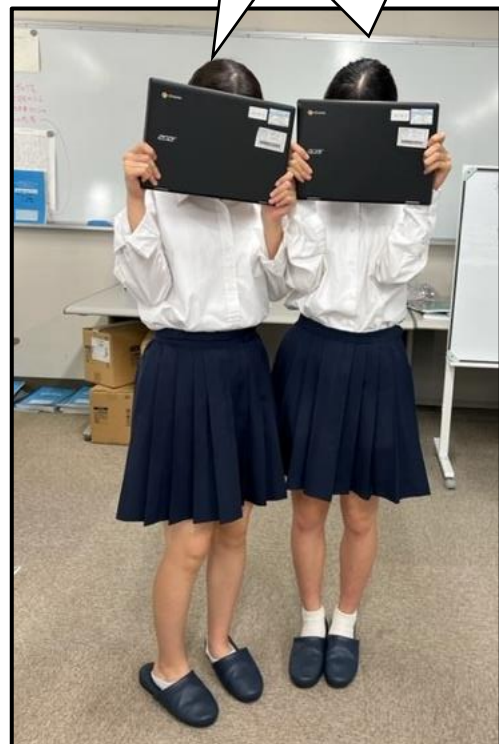
数学やばーい、と言いつつ数学を諦めない文系女子

#### 【生徒の感想】

・私達なりに試行錯誤した実験を専門家の方が熱心に聞いてくださって有難いなと感じ、このような貴重な機会を頂けて良かったなと思いました。質疑応答の際に、専門家の方の着眼点が面白く、どのように実験の正当性を高めていくのかを知れました。今日の経験から、大学では、論文を読む力や情報を収集する力を付けていきたいと思いました。プレゼンの仕方やレポートの書き方についても言及して下さったので、ヴェリタスの授業でそれらが課されていたことの重要さが分かりました。

・専門的に同じような課題について研究している専門家の方が来てくださって、未知の知識を得ることができたのでとても有意義な時間だったように感じました。もう授業で実験を行うことはないですが、後輩たちや専門家の皆さんがこの課題を解決出来るといいなと思います。

物理やばーい、と言いつつ頑張ってる理系女子



#### ポスター発表の際の実際の質問（一部）

- ・手作りの実験装置は何かモデルとしたのか。
- ・光を照射した時間は？
- ・どのように酸化チタンを金網に付着させたのか。
- ・一酸化炭素の測定方法は？

※回答に私たち教員の手助けなく、二人で相談して対応できていました。よくできました。



17時～18時の高校教員・大学教員情報交換会に参加しました。大学の先生方が高校生に温かい視線を向けてくれていることが再確認でき、とても有意義な時間が過ごせました。他校SSH高校の先生とも情報交換できよかったです。